

2022年度研究生受入要件について

※以下に記載のない指導教員については、出願書類をご提出いただいた上で個別に受入の可否を確認します。

専攻	指導教員	研究室	専門分野	提供する研究テーマ	受け入れ要件	研究環境	出願書類以外の必要書類	注意事項
物理学専攻	石井 靖	固体電子論研究室	物性理論 固体電子論	第一原理に基づく電子構造計算	・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること ・研究上の意思疎通が支障ない程度の日本語あるいは英語能力	専用機・椅子の提供	研究計画書(所定の書式とは別に作成してください。A4用紙1-2枚程度、日本語または英語)	
	田口 善弘	非線形物理学研究室	バイオインフォマティクス	miRNAによる遺伝子発現制御の生体生命情報学的な研究 エピゲネティクスによる遺伝子発現制御の生体生命情報学的な研究	・日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格or日本留学試験の日本語の合計点が200点以上 ・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること ・物理学と生命科学において学部卒程度の能力があること	研究指導(能力に応じて随時)、専用機・椅子の提供は保証できない(面積が手狭なため)	日本語能力を証明する書類、卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること)	大学院進学を目的とした受入(国費留学生を除く)は行わない 募集定員1名
精密工学専攻	梅田 和昇	知的計測システム研究室	ロボットビジョン 画像処理	距離画像処理・画像処理のロボティクス、 ヒューマンインタフェースなどへの応用研究				
	大隅 久	ロボット工学研究室	ロボット工学	マニピュレータの機構と制御に関する研究	【精密工学専攻共通】 ・日本語能力試験N2レベル(旧試験で2級相当)以上の合格、または日本語留学試験の日本語の合計点が200点以上 ・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること。	【精密工学専攻共通】 週1回程度の研究指導、机・椅子・PCの提供。	【精密工学専攻共通】 日本語能力を証明する書類、卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること)、推薦状は大学での指導教授作成のものに限る。日本国内の保証人の身分を証明する書類。	【精密工学専攻共通】 大学院進学を目的とした受入(国費留学生・協定校からの留学生を除く)は行わない 募集定員 指導教員あたり1名
	辻 知章	計算材料力学研究室	材料力学 計算力学 理論応用解析	応力測定法、衝撃力の逆問題解析、木材の材料定数の計測				
	戸井 武司	音響システム研究室	快音設計 音質評価 音響数値シミュレーション	音響に関連した研究				

専攻	指導教員	研究室	専門分野	提供する研究テーマ	受け入れ要件	研究環境	出願書類以外の必要書類	注意事項
精密工学専攻	中村 太郎	バイオメカトロニクス研究室	・バイオロボティクス/メカトロニクス ・スマートソフトウェア ・生物規範型ロボット	・空気圧人工筋肉・機能性流体デバイスの開発とロボットマニピュレータの制御 ・生物型ロボットの開発と医療/宇宙探査/工業分野への応用	【精密工学専攻共通】 ・日本語能力試験N2レベル(旧試験で2級相当)以上の合格, または日本語留学試験の日本語の合計点が200点以上 ・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること.	【精密工学専攻共通】 過1回程度の研究指導, 机・椅子・PCの提供.	【精密工学専攻共通】 日本語能力を証明する書類, 卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること), 推薦状は大学での指導教授作成のものに限る. 日本国内の保証人の身分を証明する書類.	【精密工学専攻共通】 大学院進学を目的とした受入(国費留学生・協定校からの留学生を除く)は行わない 募集定員 指導教員あたり1名
	中山 司	流体工学研究室	計算流体力学	有限要素法, 境界要素法, 粒子法を用いた流れ解析に関する研究				
	平川 健	マイクロ・ナノロボティクス研究室	・微細操作 ・微細操作 ・マイクロロボティクス ・微細加工	・マイクロ流体を用いた細胞操作・解析 ・マイクロロボットの作製				
	平岡 弘之	生産情報システム研究室	計算機援用設計 生産プロダクトモデル	・ネットワークエージェントとRFIDを用いた部品のライフサイクル支援 ・製品モデリングのためのインスタンスツール				
	松本 浩二	熱エネルギーシステム研究室	・食品冷蔵・冷却 ・機能性水 ・氷スラリーの生成 ・氷の付着力の評価 ・着霜現象の評価 ・氷結晶方向制御の工学的応用 ・界面制御	伝熱工学を主体として, 物理, 化学, 結晶学, 界面化学, 食品工学等との学際領域に関する研究				
	土肥 徹次	マイクロシステム研究室	MEMS, 医用マイクロセンサ	MEMS技術を利用した新しいセンサに関する研究(MRI用のMEMSコイル, マイクロ血圧センサ, マイクロ構造の組立など)				
	新妻 実保子	ヒューマン・システム研究室	人・ロボットコミュニケーション, 空間知能化, ヒューマン・インタフェース	・動物行動学に基づく人とロボットのコミュニケーション ・触覚インタフェースに関する研究				
	鈴木 宏明	ナノバイオモデリング研究室	微細加工 バイオチップ 生物物理学	バイオマイクロシステム 細胞モデルの構築				
	米津 明生	材料強度学研究室	材料物性評価学, ナノ・マイクロメカニクス, 非破壊評価, 環境材料強度学	マルチスケール力学モデリングや非線形構造力学などの数値解析				

専攻	指導教員	研究室	専門分野	提供する研究テーマ	受け入れ要件	研究環境	出願書類以外の必要書類	注意事項
電気電子情報 通信工学専攻	白井 宏	電磁波工学研究室	<ul style="list-style-type: none"> 電磁波工学 無線通信工学 アンテナ工学 電磁環境工学 	<ul style="list-style-type: none"> 電磁波散乱・伝搬の解析 散乱体認識技術 電波の可視化 高周波測定技術 	<ul style="list-style-type: none"> 理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有し、電磁波についての基礎知識を有すること。 当研究室が提供する研究テーマに対して、積極的に取り組む意欲を有すること。 日常生活に不自由しない程度の日本語能力を有すること(例えば、日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格or日本留学試験の日本語の合計点が200点以上)。 研究指導を受けるにあたって不自由しない程度の日本語または英語の能力を有すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究室で行う学部生・大学院生を対象とするゼミへの参加。週1回程度の研究指導・打ち合わせ。 研究室へ所属している大学院生と同程度の研究室環境の利用(机、椅子。PCは学部生、大学院生と原則として共用) 	<ol style="list-style-type: none"> 日本語(日本語検定等)、および英語(TOEIC, TOEFLの成績等)の能力を示す資料。 以前在籍していた大学・大学院での研究で、本研究室で研究したいテーマに一番近い研究論文。 以前在籍していた大学・大学院で、研究・教育指導等を受けたりして本人のことを良く知っている教員1名の氏名、所属、連絡先。Eメールは先方の所属機関のEメールアドレスを記入のこと。フリーメールアドレスは不可。 研究生として在学する一年間の研究計画予定書1,000字程度。(提出が望ましいもの) 上記3.の教員本人からの推薦Eメール(日本語または英語) 	<ul style="list-style-type: none"> 募集定員若干名。 受け入れは1年以内とし、複数年継続しての受け入れは原則認めない。 研究生受け入れと将来希望した場合の博士課程前期・後期課程への進学受け入れ内諾とは無関係であることを承知しておくこと。
	山村 清隆	情報数理工学研究室	非線形システム回路シミュレーション	非線形システムの数値解析法に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格or日本留学試験の日本語の合計点が200点以上 理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること 数値解析と数値計画法に関する基礎知識を有すること 	週1回の研究指導、専用机・椅子の提供	日本語能力を証明する書類、卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること)	大学院進学を目的とした受入(国費留学生を除く)は行わない 募集定員1名
応用化学専攻	石井 洋一	有機金属化学研究室	有機遷移金属錯体の合成と反応性 多核遷移金属錯体の分子設計	シアナミド架橋多核錯体の分子設計 ピニリデン転位の一般化と利用				
	片山 建二	分光化学システム研究室	光化学 分光科学	<ul style="list-style-type: none"> 太陽電池 光触媒 光応答性液晶 顕微分光 時間分解分光 	<ul style="list-style-type: none"> 英語もしくは日本語でのコミュニケーションがとれること。 			
	福澤 信一	触媒有機反応研究室	有機合成化学 有機金属化学 錯体触媒化学	不斉触媒の合成	<ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格or日本留学試験の日本語の合計点が200点以上 理工学系の修士号を有すること TOEIC 750点以上またはTOEFL 550点以上 	週3回の研究指導	日本語能力を証明する書類、卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること)	大学院進学を目的とした受入(国費留学生を除く)は行わない 募集定員1名

専攻	指導教員	研究室	専門分野	提供する研究テーマ	受け入れ要件	研究環境	出願書類以外の必要書類	注意事項
経営システム工学専攻	鎌倉 稔成	統計工学研究室	統計的データ解析 信頼性における統計的方法および生存時間分析 データマイニング	統計的データ解析	・日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格or日本留学試験の日本語の合計点が200点以上 ・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること	週1回の研究指導、 研究機材の提供(コンピュータ、データ計測装置)	日本語能力を証明する書類、卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること)	大学院進学を目的とした受入(国費留学生を除く)は行わない 募集定員1名
	中條 武志	開発生産工学研究室	品質管理 人間信頼性工学	・潜在的なヒューマンエラーのリスク評価方法の開発と応用 ・エラー対策データベースの構築と活用方法 ・根本原因分析手法の開発と応用	・日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格、または日本留学試験の日本語の合計点が200点以上 ・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること ・研究テーマを行うことのできる十分な経営システム工学分野の専門知識(品質管理、信頼性工学、統計学)があること	・週1回の研究指導 ・研究室(共同)および機器の使用	・日本語能力を証明する書類 ・卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること)	・大学院進学を目的とした受入(国費留学生を除く)は行わない ・募集定員1名
	後藤 順哉	応用最適化研究室	オペレーションズ・リサーチ 数理最適化	ポートフォリオ最適化	・日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格or日本留学試験の日本語の合計点が200点以上 ・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること ・研究テーマとこちらの専門性との一致	共用机・椅子の提供	日本語能力を証明する書類、卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること)	大学院進学を目的とした受入(国費留学生を除く)は行わない 募集定員1名
情報工学専攻	鈴木 寿	知能・情報制御研究室	サイバネティクス 人工知能(AI) ロボティクス(ロボット工学)	【画像処理】人体やロボットの動作のストローク生成 【信号処理】Pronyエネルギースペクトル密度分析ツールの開発 【信号処理】心音図分析/心電図分析 【信号処理】音響分析一般 【自然言語】日本語で会話するコンピューターの要素技術	・日本語能力試験1級を受験予定がある以上の日本語能力を有し、かつ、理工学系の学士以上の学力を有すること	研究室(学生実験室)における専用の机・椅子の利用、および、研究室行事(研究室ゼミを含む)への参加	日本語能力を証明する書類、卒業論文等、研究目的および研究計画について明確に述べた文書(図・表の利用可)	大学院進学を目的とした受入れは行わない(国費留学生を除く)。
	牧野 光則	システム解析・可視化研究室	コンピュータグラフィックス(CG) バーチャルリアリティ(VR) 可視化(VIS)	以下の項目ならびに関連項目を中心とした技術の調査ならびに研究 ・CGに関するレンダリング、モデリング ・OpenGLを用いたリアルタイムCG ・OpenGL、VRMLを用いたVR(立体視、没入感) ・オープンソースを用いたAR(拡張現実感) ・Scientific visualization, data visualization, information visualization	・理工学部情報工学科ならびに情報工学専攻が定めた学生に求める7種のコンピテンシー(コミュニケーション力、問題解決力、知識獲得力、組織的行動能力、創造力、自己実現力、専門性)の自己点検結果が、各々レベル2以上、平均レベル3以上であること。 ・当研究室が提供する研究テーマに対して、積極的に取り組む意欲を有すること。 ・日常生活に不自由しない程度の日本語能力を有すること(例えば、日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格or日本留学試験の日本語の合計点が200点以上)。 ・研究指導を受けるにあたって不自由しない程度の日本語または英語の能力を有すること。 ・Cプログラミングの知識と経験を有すること。	・学部生を対象とする主な研究室活動への参加(学部生ゼミへの参加・聴講、大学院生ゼミの聴講、外部見学など)。但し、守秘義務があるものは除く。また、非公開情報を含む活動には参加できない場合や、守秘に関する誓約書の提出が求められる場合がある。 ・学部生と同程度の研究室環境の利用(机、椅子、PC、CG・VRシステムは学部生、大学院生と原則として共用)	研究科が研究生出願に際し必要とする書類の他、上記「研究にあたり求められる要件」を満たすことを示す文書等。例えば、以下の通り: ・コンピテンシー自己点検結果(用紙入手方法は問い合わせること) ・卒業研究論文またはcapstone projectレポートの写しまたは要約(英語または日本語でない場合には、英語または日本語による要約を付すこと) ・Cプログラミング経験に関する説明文書(A4判1ページ以内が望ましい)	・募集定員若干名。 ・受け入れは1年以内とし、複数年継続しての受け入れは原則認めない。 ・研究生本人に著作権がある場合を除き、作成・利用したプログラムを研究室外部に持ち出すことは原則として認められない(例えば、研究室保有のデータやソフトウェアライブラリを一時的にせよ私物のPCに複写することは、利用条件を満たさないで認められない)。このため、研究は原則として研究室で行うことになるため、定期的な登校・研究室在室が強く求められるなど、高い自己実現力が求められる。 ・研究生受け入れと将来希望した場合の修士課程・博士課程進学受け入れ内諾とは無関係であることを承知しておくこと。